



翁島小学校だより

第20号 H31. 1. 22 発行 文責：校長 星 善樹

「だんご差し」をしました。(小正月の伝統行事の体験)

1月15日(火)、今年も全校生で小正月行事のだんご差しをしました。2校時目が終わると、各学年ごとに分担して、赤や白、黄色や緑など様々な色の団子づくりを行いました。そして、子ども達が丸めただんごは、お昼休みの時間までに茹でておきました。給食が終わり歯磨きを終えた子供達は、児童玄関や職員玄関に集合。ミズキという木にだんごやら鯛などの餅ばなやらを飾りました。だんごさしには、豊作や家内安全を願って古くから行われている行事です。翁島小学校の子供達が安全に生活できますように、そして、たくさん良いことがあるようにと言う願いを込めて行いました。



だんごを丸める子ども達



だんごを差す子ども達

◎ 野口博士の生家でも「だんご差し」を行いました。

全校児童でだんご差しを行う前、1月10日に、1年生と3年生は、野口博士の生家でもだんご差しを行いました。学校とは比べものにならない大きなミズキに、1年生と3年生でたくさんのだんごを差しました。この様子は、新聞でも報道されました。だんご差しに限らず、伝統的に行われてきた行事は次第に姿を消して来ているという現状があります。そうした中、昔の人々の願いに思いを馳せながら伝統的な行事を体験できるということは、豊かな心を育むといった点からとても大切な事だと考えます。こうした機会をいただける翁島の子ども達はとても幸せです。



だんご差しを終えて全員集合(於:博士生家)



団子さし楽しいな 野口英世博士の生家で翁島小児童

猪苗代町の野口英世記念館は十日、国登録有形文化財に答申された野口英世博士の生家で団子さしを行った。小正月を祝う毎年恒

ミズキに手を伸ばして団子をさす児童

例の催し。野口博士の母校である町内の翁島小の一、三年生計二十四人が参加した。

ミズキの枝に白色や赤色、青色、黄色などの団子をさした。ミカンやタイなどをかたどったふ菓子飾り、児童は地域の人々の幸せを願っていた。

平成三十一年
一月十二日(土)
「福島民報」より

◎大阪府箕面市(みのお)の野口英世博士像について

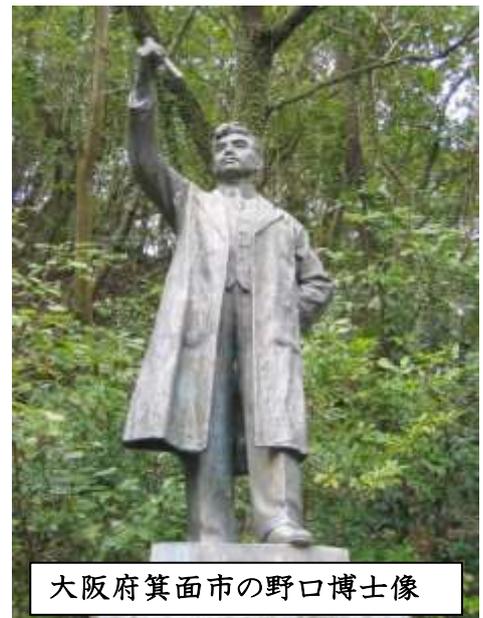
昨年、本校校舎前にある左腕を包帯でつった野口博士少年像は、数ある野口博士像の中でも珍しい像であり、県内では唯一のものであること、他に同じ物としては、作者である塩崎宇宙氏の故郷愛媛県に3体あるのみとすることをHPや学校だよりでお知らせいたしました。

今回、大阪府箕面市に建立された野口博士像についての興味深いお話を知りましたので掲載致します。既に多くの方がご存じのお話かも知れませんが……。

大阪の箕面(みのお)公園に野口英世博士の銅像が建っています。みなさんも知っているように野口博士は梅毒や黄熱病の原因となる病原体の研究で世界的に有名になった細菌学者であり、また研究をしていた黄熱病で亡くなった事でも有名です。平成16年11月には新千円札の顔にもなる偉人ですが、生まれは福島県の磐梯山のふもとの貧しい農家です。成長してから東京で勉強しましたが、大阪とは直接関係がありません。ではどうして大阪と直接関係のない野口博士の銅像が箕面公園にあるのでしょうか。

実はこの像は、箕面にあった「琴之家」という料亭の女主人が建てたものです。ではなぜ料亭の女主人が博士の銅像を建てたのでしょうか。それには次のような話が残っています。

大正4年(1915年)の9月、野口博士は15年ぶりにアメリカから日本に帰ってきました。世界的に有名な学者が久しぶりに日本に帰ってきたということで、全国各地から講演依頼が殺到しました。その時、博士は長い間さみしい思いをさせた母親に親孝行をしたいとの思いから、一緒に連れて行くことにしました。東京、名古屋、伊勢をまわって大阪に着き、箕面の料亭で歓迎会に招待されたのです。その宴会の場には、関西でナンバーワンといわれる芸者が舞を舞って歓待しましたが、それには目もくれず、かたわらの母親に「お母さん、これはかつおという魚のお刺身ですよ」「お母さん、松茸のおつゆですよ」と箸を取って食べさせ「お母さん、お母さん」と言って、まるでからだじゅうを撫(な)で回すようないたわり方でした。舞っていた芸者は、本来であれば自分が無視された、と腹を立てるところですが、さすが一流だけあって、博士の心情を理解し、並々ではできないものではない、と、そっと涙を流したと言われています。そしてこの様子を見ていた女主人も、今までたくさんのお客を見てきたが、あの時の博士のように「お母さん、お母さん」とお母さんを大切にする客は一人もいないと深く感銘を受けたのでした。そしてこのことをいつまでも忘れないでおこう、また後の人にも伝えていこうと思い、銅像を建てる決心をしたのです。しかし自分のお金を全部出しても足りませんでした。そこで大阪府知事・箕面町長・府下学童並びに箕面町ゆかり方々から浄財を求め、公園には立派な銅像が建ったのです。



大阪府箕面市の野口博士像

この銅像の製作は、著名な彫刻家・吉田三郎氏(日本芸術員会員)が行いました。吉田氏の野口博士像は、上野公園にも建てられており、共に右手に試験管をかざして、左手を腰にあてる姿の銅像です。翁島小の子ども達は、毎年、修学旅行で上野公園を訪れた際は、博士像の前で記念写真を撮っています。